

10号 特集 海外における精神保健活動の現状

活動はくり返し検証されて豊かになる。他の活動を鏡に自分たちの活動を検証するとき、国内の活動と照らし合わせるのか、国も文化もまったく異なった地域の活動に焦点を当てるのか、さまざまな視点の置き方がある。それを、日本人である私たちがどう捉え、そこから何を学び取るのかということから、逆に私たちの感性が問われる。広い世界に思いを馳せて遠く離れた他の活動を知るとともに、もう一度自分たちのしたいことは何か、どこへ向かっているのか、日本の、自分たちの地域だからできることは何か、視野の広さと足元の確かさを見直していくこと。この繰り返しがあってこそ活動は常に循環し、再生していくのだ。他の活動に学ぶ意義は、そこにある。今回の特集は海外での精神保健福祉活動について、いわゆる先進国と途上国からの報告を掲載している。そこから見えてくるのはすべての国や地域に共通して語れることと、それぞれに抱えている問題の違いや、歴史の違いから来る個々の地域性である。しかし、どこに住んでいても何をしていても、そこにいるのは変わらない「人間」であり「生活者」なのだ。